

# はまごう小だより

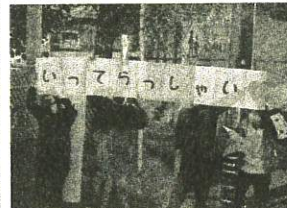
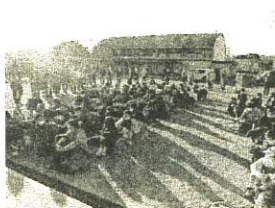
## 自分が大好き！あなたが大好き！！

伊勢市立浜郷小学校  
令和2年10月19日  
発行者 平生 理恵  
第15号

### 修学旅行に行ってきました！！

新型コロナウイルス感染症の心配により、実施が危ぶまれてきた修学旅行でしたが、10月15日(木)・16日(金)の二日間、無事に修学旅行を実施することができました。当初は奈良・京都の予定でしたが、今年は伊賀・名張といった県内の旅行となりました。

出発の時間になると職員が手作りの横断幕(！?)で、見送りをしてくれて、中には他校に転勤された先生もサプライズで来てくださっていました。大勢の見送りの中、児童72人、引率者10人(写真屋さん・添乗員さんを含む)の浜郷小修学旅行団は元気に出発いたしました。



1日目の最初は3チームに分かれての伊賀見学でした。伊賀上野城・伊賀流忍者博物館を見学し、『伊賀くみひも組匠の里』で組みひも体験をしました。組みひも体験の活動時間は1時間足らずでしたが、とても素敵な“世界に一つだけ”のストラップやブレスレットを作ることができました。



上野ドライブインで昼食をいただいた後、忍者の森に向かいました。

忍者の森では忍者の衣装に身を包み、忍者修行をすることになりました。塀を軽やかに(?)飛び越えたり、ひもを伝って移動をしたり、手裏剣を投げたりと、様々な修行を行いました。最初は少し恥ずかしそうにしていた子どもたちも、段々と気持ちが乗ってきて、とても楽しんでチャレンジしていました。

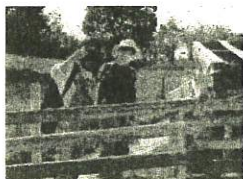


1日目の行程を終え、伊賀の老舗旅館である『対泉閣』に到着しました。結構歩く距離があったので、子ども達も少々疲れた様子が見られました。

美味しい食事をお腹いっぱいいただいた後は、自分たちの部屋に戻り順番に入浴タイムとなりました。修学旅行では、このお泊りタイムがまたまた子どもたちの最大の楽しみでもあり、普段では過ごすことのできない夜の時間を、おしゃべりなどで楽しんで過ごしていました。消灯時刻にはすぐに眠りにつけなかったようですが、少々ワイワイ聞こえていた声もやがては静かになり、ふかふかのお布団で1日目の疲れを癒しました。



お天気も心配しておりましたが天候にも恵まれ、二日目は曇りどころか綺麗な青空のもと赤目四十八滝の散策をし、オオサンショウウオとの対面を果たし、“布曳滝”のところまで行って引き返してきました。その後、旅館の皆さんに盛大なお見送りをしていただき、モクモクファームに向かいました。



モクモクファームでは自由行動となり、家族の顔を思い浮かべながら、お土産のお買い物を楽しみました。ブタさんのショーを見たり、ザリガニ釣りをしたりとたっぷり時間はあったようですが、子どもたちにとってはあっという間の時間だったようです。

最後は東海道 47 番目の宿場町である関宿を見て歩きました。少し伊勢のおはらい町にも似た雰囲気があったのですが、子ども達はどこまでそれを感じてくれたでしょうか。



関ドライブインでトイレ休憩とさらにお買い物を済ませ、いよいよ家族の待つ伊勢へと向かいました。行きのバスの中は大変にぎやかでしたが、帰りはガイドさんがかけてくださったCDの音楽をBGMに、お休みタイムになっていました。

この修学旅行の実施については、子ども達、保護者の皆さんはもちろんのことですが、地域の方々にもご心配いただいております。保護者の皆様には、出発当日早朝よりお見送りいただき、また、帰りにもお迎えいただきありがとうございました。

お兄さんやお姉さん、先輩たちの話を聞いて、奈良京都に思いを巡らせていた子もいたかと思いますが、逆に、今までにはなかった行程であらためて三重県の良さにも触れ、新たな思い出ができたことと思います。

6年生の子どもたちにとってはあと残り5カ月の小学校生活となります。ウイズコロナの生活ではありますが、卒業の日までさらにたくさんの良い思い出を作ってほしいと願っています。



## いな川排水機場の見学をしました。

本来春に行われるはずであった行事が秋開催になったことや、行事が縮小開催されていたことで、後期の行事があわただしく行われるような感じがします。社会見学やま☆スタも中止というのではなく、後期になってからは、内容を変えたり規模を縮小したりして開催しています。

6年生のはま☆スタでは、9月27日にこの地域を水害から守るために作られたいな川排水機場の見学をしました。この日はまず、教育集会所の齋藤さんからこの排水機場が作られた経緯や排水機場の役割についてお話していただきました。その後、中崎地区の区長さんである山崎静子さんをお願いして、実際に排水機場を見せていただき、その場で普段は見ることのできない、中の機械も見せていただきました。色々な話を聞かせてもらったことで、子ども達は、台風などによる水害に遭わず安心して生活できる今の生活は当たり前にあるのではなく、多くの方の努力のお陰であることに気づきました。また、この排水機場の建設についてはもちろんのことですが、台風等で心配なときなどは真夜中であろうと機械を動かして来ていることも知り、地域の方々への感謝の気持ちを強くしていました。

